

東洋公衆衛生学院臨床検査技術学科

山口 聡*

はじめに

専門学校東洋公衆衛生学院は東京都渋谷区本町にあります。渋谷と聞くと原宿・渋谷駅周辺の若者の街の印象もありますが、渋谷区・新宿区・中野区の境にあたり、周りは住宅街が広がっています。本校は甲州街道の北側に平行している「水道道路」沿いにあり、この道路は、元々は淀橋浄水場(現都庁周辺、西新宿)につながる玉川上水路跡を埋立て整備されたため、平坦でまっすぐな道路が新宿駅まで続いています。屋上からは新宿高層ビル群が一望でき、新宿駅まで徒歩圏内の立地環境にあります。

I. 沿革・概要

本校の濫觴は創立者の江藤仁之が昭和41年に衛生検査技師養成所を創設、昭和46年に臨床検査技師養成校として認可を受けたことに遡ります(写真1)。将来は医療の分業化が進み、当時は不足していた高度な専門知識・技術に熟達した技術者の育成が急務と認識し、開校しました。開校時は夜間部のみで、病院等で検査補助業務に従事していた方が勤務後に通学されていました。後に昼間・夜間部の2部制となり、1学年80名定員で養成していましたが、昭和60年の入学生を最後に夜間部は廃止され昼間部のみとなりました。また、昭和55年に診療放射線技術学科を新設し、現在

の2学科体制となっています。その後、平成21年に臨床検査の定員数を80名から40名に変更し現在に至っています。小規模な学校ながらも、非常勤講師、卒業生、実習・就職先、近隣住民等の多くの方に支えられ、本年度で創立58年を迎え、卒業生総数は5,000名を超え、それぞれの斯界で活躍するに至っています。

II. 教育理念

本校は建学の精神に基づき、「医の倫理をわきまえ、医療人としての学術を基本に、情操豊かな人間性を培う」を教育理念とし、教育目標として以下を掲げています。①自己の成長のために学修を継続するとともに、職業人としての問題の追及と解決に当たる態度を身につける。②責任感と実務能力を備え、社会の信頼に十分こたえられる知



写真1 創立当時(S41年)の校舎(中央)

* 専門学校東洋公衆衛生学院臨床検査技術学科 yama@toyo-college.ac.jp

識と技術、態度を身につける。③人とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につける。これらの目標を教職員が共通認識として持ち、学生の自主性の尊重を基本とした教育を実践しています。

III. 教育体制と学生支援

1. 入学前の学習支援

入学予定者が臨床検査教育にスムーズに移行できるように学習機会を提供し、個々の基礎学力確認のために、1月から3月にかけて実施しています。内容は①入学前の学習の取り組み方と準備について、②オリジナルテキストによる課題学習、③課題学習の評価とフィードバック、④オンライン授業で構成しています。遠方の入学予定者に対応するため、Google work space for education をプラットフォームとして使用しアカウントを付与しています。この学習支援は主体的な学習を基本として実施していますが、期間中の学習への取り組み状況は適宜確認し、フィードバックにおいてアドバイスをを行っています。また、入学者全員に laptop を無償貸与し在学中の学習に活用させています。

2. 1年次の取り組み

入学してから間もなく1泊2日で新入生研修を行っています。これは20年以上継続している伝統行事でもあります。臨床検査技師の業務、3年間の学修プロセスなどを再確認しているほかに大半はグループワークにあて、ほぼ初対面の者同士、意見交換や協働作業を通じて親睦を深めています。このスタートアップは1年次はもとより、3年間を充実した学校生活にするための重要な役割を担っており、研修後の学校生活により効果をもたらしています。また、基礎教育の進展にあわせて、秋には東邦大学解剖学教室にて解剖見学を実施、姉妹校と連携し幼児と高齢者の行動特性や心理、コミュニケーション手法などを学び、世代の異なる方々への適切なアプローチについて理解を深めています。

3. 2年次の取り組み

臨床検査専門分野を中心とした科目編成で必修科目の半数が実習で構成されています。令和5年

度から年度末に臨地実習前技能修得到達度評価試験を実施することを踏まえて、年間を通じて臨地実習に通ずることをより意識させた実技指導を行っています。また、早期就職活動の定着を目指して、特に地方出身者には長期休暇を利用した病院見学などへの参加を推奨しています。さらに、在学中に検定試験などの合格を目指し、希望者には授業とは別に対策講座を開講しています。目指す試験としては遺伝子分析科学認定士初級(日本臨床検査同学院)心電図検定3級(日本不整脈心電図学会)となります。近年は遺伝子分析科学認定士試験に受験する学生は減り、心電図検定を受験する学生が増えております(表1)。在学中に受験できる各種試験には積極的に挑戦することを推奨し、サポート面の充実を計画しております。

4. 3年次の取り組み

令和6年度より新たな制度での臨地実習が始まりました。実習施設は首都圏を中心に22施設、期間は5月から8月末までの4ヵ月として、従来から1ヵ月短縮し実施しています。各実習施設には多大なるご理解とご協力をいただき、万全な指導体制を整えていただいております。臨地実習を履修するにあたり2年次2月に技能修得到達度試験、3年次4月に学科試験を課しております。そのほかに技師長・指導者による特別講義、患者対応・礼節について受講し、臨地実習の意義を再確認しております。また、事前指導の取り組み成

表1 心電図検定(3級)の合格状況

	受検者数	合格者数	合格率	全国合格率
令和元年度	43	30	69.8%	73.1%
令和2年度	25	14	56.0%	76.4%
令和3年度	25	12	48.0%	75.9%
令和4年度	17	9	52.9%	75.5%
令和5年度	51	33	64.7%	74.8%

果の一つとして、実習先への事前訪問に際しては、アポイントの取得から訪問当日に至るまで、基本的には教員は関与せず、実習生のみで対応をさせております。臨地実習が終了した翌週には20年近く続く伝統行事である、国家試験対策研修を実施しております。この行事を境に臨地実習から国家試験に向けての学修への転換となりますので、リフレッシュ要素も加味した内容となっております(写真2)。

5. 就職活動の支援

関東圏は病院数が多く加えて卒業生からの直接的な依頼もあって、ここ数年の求人票受理件数は高い水準で安定しています。また、一都三県に在住する学生の場合、交通網の発達は通勤の利便性を高め、広い通勤エリアで就活できるのも利点となっています。本校では地域性の利点に加えて就職支援室が中心となってその活動を後押ししています。求人情報はプッシュ型で通知し、新着情報は常にスマートフォンから確認することができ、膨大な過去の採用試験情報は病院ごとにまとめ、いつでも情報が参照できる仕組みを構築しています。就活に欠かせないエントリーシート・履歴書添削をはじめ面接指導は個別対応できる体制を整えております。また、就活の際に必要な健康診断書は医療機関と提携し、発行費用の補助をしています。入手までの手間を省くことにも繋がっており、学生が採用試験に専念できるように支えています。就職希望者の95%は医療機関・検査センター・検診施設へ就職し、残りは進学しています。本校では単に就職、進学先を決めるための就活で

はなく、学生自身の満足度が高い進路決定を目指しています。

IV. 社会貢献活動

1. 教育資源の活用

本校では緊急臨床検査士、二級臨床検査士(日本臨床検査同学院)の認定試験会場のほか、企業研修、若手技師の講習会などその目的に応じて教室・実習室・医療機器・実習器具などの教育資源を活用いただくことで支援をしております。また、令和5年にはJICA東京が最寄り駅の幡ヶ谷にあることもあって、1週間の臨床検査実技研修(微生物)を実施しております。現在の教育課程では国際交流が手薄になっていましたので、このような機会は学生にとっても良い経験になっていました(写真3)。

2. 地域貢献と啓発活動

地域住民の方を対象に小中学生向けに親子で参加できる科学教室を開催し、医療をメインテーマに様々な科学的な好奇心を持っていただけるように毎年内容を変え実施しています。(写真4)子供用の小さい白衣を着用して行う実験では科学者の雰囲気を感じてもらい、終了後に参加記念として修了証を渡しております。また、渋谷区が主催する子供科学センター・ハチラボにもスポット参加し、医療や臨床検査技師の啓蒙に繋がる活動にも取り組んでおります。



写真2 国家試験対策研修の様子



写真3 JICA 実技研修(微生物)



写真4 親子教室で顕微鏡の観察

V. 現在の課題と今後の展望

専門学校による3年制教育が減少し4年制教育が主流となり、進学先の選択肢も増した今、入学を希望する学生の本校に対する期待は以前よりも明確になってきていると感じています。創立以来、3年間で医療従事者として相応しい人材に育てる教育方針を継承しつつ、その世代に合わせたカリキュラム編成、学修支援、国家試験指導、就職支援のさらなる充実は必須です。学生個々に応

じた適切で柔軟な対応も求められています。また、インクルーシブ教育への体制作りも急務となっています。本校ではこのようなニーズを具現化するために、教員の意識改革と研修の充実を今後の課題の一つとしています。一方、校舎の老朽化が進みハード面の整備は喫緊の課題となっています。校舎は狭小なため学修するための教室や談話室、面談室などが不足しており、学修環境が整備されていないのが現状です。令和6年にはようやく新校舎増築に着手し、学修環境の改善を進めております。その中には図書室を多目的に活用できる Learning commons としての整備を目指しています。

他にも課題は山積し毎年新たな課題が湧き上がる状況ではありますが、裏を返せば発展の余地があると捉え、現状に満足することなく臨床検査技師養成校として誇れる教育を実践したいと考えております。今後も建学の精神である「医療人として必要な専門知識、技能を教授し、社会に貢献できる有能な人材を育成する」を本校の使命として果たしていきたいと思っております。